

平成30年度 第1回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 平成30年6月28日（木） 10時から正午まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
- 石川 宏之 会長、伏見 和久 委員、 杉山 昌之 委員、  
渋江 かさね委員、杉山 美代子 委員、石亀 雅敏 委員  
(事務局)
- 岡村 渉 文化財課長  
文化財課（登呂博物館）
- 宮本担当課長兼館長、芝原主幹、益田主査、小島主任主事、  
鈴木主任主事、國島主任主事、桑山主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事記録
- 1 文化財課長挨拶
  - 2 博物館施設視察
  - 3 事務局 職員の紹介について
  - 4 議事
    - (1) 平成29年度の事業報告について
    - (2) 平成30年度の事業について
    - (3) 議題「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」

事務局

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。

それでは定刻となりましたので、ただ今より平成30年度 第1回静岡市立登呂博物館協議会を開会させていただきます。

なお、本日の会議ですが、委員定数10名のところ、現在5名が出席されております。海野委員、弓削委員、藤田委員、山岡委員から欠席の連絡をいただいております。清水第五中学校の杉山委員より少し遅れると連絡を受けております。よって、過半数に達しておりますので、本会議は成立いたします。

また、今回は市民の皆さんに公開されておりますが、傍聴希望の方はいらっしゃらないことを併せて報告させていただきます。

本日は私、芝原が進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。  
それでは、会に先立ちまして、静岡市観光交流文化局文化財課長の岡村より御挨拶を申し上げます。

## 1 文化財課長挨拶

課長

委員の皆さん、おはようございます。

文化財課長の岡村でございます。開会にあたり一言、御挨拶させていただきます。

本日はお忙しい中、平成30年度 第1回静岡市登呂博物館協議会に出席いただきましてありがとうございます。平成28年度に登呂遺跡出土品775点が国の重要文化財になったことを起爆剤として、関係事業を実施して参りました。

入館者数について毎年18万人程度を維持してきましたが、思うように入館者が来ず、昨年度は平成28年度と比較して約13,000人の減となってしまいました。また、重要文化財に指定された遺物の保存処理事業を実施するため昨年度から準備していましたが、文化庁の補助金の不足により1年先送りになってしまいました。ただ、今年度は既に事業実施に移っておりますので、その点は問題ございません。しかし、1年先送りになったということがございました。

明るい話題といたしましては、登呂博物館で長く懸案となっていました多言語での音声ガイド、あるいは多言語化したパンフレットの作成が昨年度実施でき、今年度当初から運営を開始できたということは、ひとつ前向きなことではないかと思えます。そして平成28年度に空白が生じておりましたミュージアムショップにつきましても、昨年のGW前から新たに開店することができました。そのミュージアムショップにつきましても、まだまだ改善が必要な点もありますが、事業者は弥生時代のファッションショーを企画するなど前向きに運営を行っているところは評価できる点かと思えます。

このように、まだまだ多くの課題を抱える登呂博物館ではありますけれども、よりよい博物館にするため事業の内容検討だけでなく、前回から引き続く博物館の課題の解決策について委員の皆さんより提言をいただきたいと思えます。委員の皆さんと博物館職員が連携して進むべき方向に向っていくことが博物館の発展に繋がるものと考えておりますので、活発な御議論をお願いして開会の挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 2 博物館施設見学

事務局

議事に先立ちまして、皆さんに登呂博物館の施設について視察をしていただきます。今回案内いたしますのは、北側ガイド施設と体験サポート施設です。視察の先導につきましては宮本館長と益田主査で行いますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

—館長の先導により各委員視察へ—

### 3 事務局 職員の紹介について

事務局

それでは会を再開させていただきます。まずは次第に沿って進めさせていただきます。配布資料の確認をお願いいたします。

まず「静岡市立登呂博物館協議会委員名簿」、「次第」、「協議会資料」、「平成29年度 第2回静岡市立登呂博物館協議会「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」の各委員からの御意見がまとめられたもの」、「平成30年度登呂博物館組織図」、「登呂博物館のパンフレット」、「登呂博物館年間スケジュール」、「「富士山が見える」企画展のパンフレット」の以上でございます。お手元に揃っているでしょうか。

次に、事務局から平成30年度に転入してきた事務局の職員を紹介いたします。資料の組織図を見ながらお聞きいただきたいと思います。館長お願いします。

館長

それでは平成30年度の転入職員を紹介いたします。

まずは私ですが、登呂遺跡担当課長兼登呂博物館長の宮本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

主幹の芝原と申します。よろしくお願いいたします。

事務局

主任主事の國島と申します。よろしくお願いいたします。

館長

以上3名、新しく登呂博物館に赴任して参りました。これから博物館の前進に向けて前向きに取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。では、ここからは議事に入りたいと存じます。博物館条例第12条第4項により石川会長に進行をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

#### 4 議事

石川会長

はい。それではこれより私の方で議事の司会進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず議事開始にあたりまして本日の協議会は議事録について公開しているということですが、公開にあたり内容については会長が確認するということと署名するという事になっております。あともう一人の方をお願いしたいと思っておりますが、私からの発案として石亀委員をお願いしたいのですが、石亀委員、よろしいでしょうか。

石亀委員

(了承)

##### (1) 平成29年度の事業報告について

石川会長

はい。それではよろしくお願いいたします。

続きまして平成29年度の事業報告について事務局から説明をお願いいたします。

館長

それでは平成29年度の事業報告をいたします。お手元の資料の5ページを御覧ください。

こちらは登呂博物館の入館者数推移になります。5ページの一番下が、平成29年度の入館者数となります。右から備考・累計とございまして右から3つ目に総入館者数という項目があります。平成28年度は184,891人だったのが、平成29年度は167,591人に減少しております。この内容ですが、この表の一番左側の「個人」という項目の中の「大人」という箇所に18,214人とあります。これは個人の大人で観覧料を支払って入

場した数となります。この数を見ても平成25年度から27年度にかけて15,000人台、16,000人台という数字で、平成28年度に重文（重要文化財）指定効果があったためか、ここで19,000人台と伸びておまして、その後も18,000人台です。よって個人大人の入館者数については以前より増えております。

次に、この表の少し右側を御覧ください。団体という項目があります。団体の大人という箇所を御覧いただくと平成23年度、24年度は4,500人、3,300人ですが、28年度には1,714人に減少しまして、さらに29年度は870人に減少しております。これについての原因の分析がまだできていないのですが、入館者数の減少にはこの団体の減少が傾向として考えられます。

そして、その表の右側に「有料入館者」という項目がありますが、これは2階の有料スペースを有料で観覧していただいた方の数です。有料入館者について一時期は18,000人台、19,000人台だったのが平成28年度以降増えまして29年度も24,000人程ですので有料入館者についてもさほど減ってはいません。むしろ一時期より増えております。

表の「無料」の項目の「小・中」という箇所がございます。この無料の小・中というのは市内の小中学生と減免で有料展示を観た小中学生となります。この数を見ますと一時期の30,000人台、28,000人台から13,000人台に減っています。

このように個人の来場者は一時期よりは増えていますが、大人の団体と小・中学生の無料に入っている団体の減少が29年度の入館者数の減少に繋がっていると思います。

では6ページを御覧ください。一番下にグラフがありますが、これは月ごとの入館者数を各年度に重ねたものとなります。これを見ていきますと4月、5月、それから8月が入館者数の多い月となっております。そして29年度が減少したというところですが、29年度は下の棒グラフで一番太い線になります。29年度は4月、5月の一番入館者が多い月に入館者が少なかったことが年間の数の少なさに繋がっていったと思います。ちなみに30年度は4月、5月については去年よりは沢山の方の入館がありました。

では次に進みます。8ページを御覧ください。8ページは都道府県別の観覧者数ということで「どこから来ましたか？」という調査になります。これを見ますと多い都道府県は埼玉、千葉、東京、神奈川、それから愛知、このような県が多くなります。静岡を含めた上位の埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知で全体の73%になります。おそらく静岡が片道2時間くらいの場所にある県ということで、日帰りの来場者が多いということがわかります。ちなみに市内の小学校に関しては学校見学でほぼ全部といえる数の小学校に見学に来ていただいております。8ページの表の右下の箇所は海外の分析になります。こちらについて数は非常に少ないですけれども、その中で比較的多い

のは韓国、中国、米国ということになります。音声ガイダンスで用意している言語の国と一致した部分になると思います。

それでは10ページを御覧ください。広報媒体で「何で知りましたか？」という項目ですが、左上の市内市外という項目の市外の箇所の上から二番目のインターネットで知ったという方が210人、学校・教科書で知った方が664人になります。市外の方は主にインターネットで情報を得て来場されているということです。そしてその他として417人と数が多いですが、この内容をさらに調べましたら、口コミや知り合いから聞いた、社会科見学に来たことで登呂遺跡のことを調べたという方が多いということです。

次に11ページの交通手段「何で来ましたか？」という項目ですが、交通手段は自動車、東名経由、新東名経由、国1経由、150号経由ということで、全体で約67%が車でみえた方になります。そしてこのアンケートの方法がJRという選択肢がなかったものだから、おそらくバスの中にJRが入っていたと思われそうですが、交通集団としては車でみえている方が多く、日帰りの方が多いということになります。

では13ページを御覧ください。「次は・前はどこに？」という項目で、多いのが駿府城址、久能山東照宮、三保松原が多く、この3つで全体の約半分になっております。これは想像どおりという印象であります。

それから14ページを御覧ください。「平成29年度の事業実施状況について」でございますが、まずは企画展です。これを御覧いただきますと、例えば企画展Ⅰ「石の刃物 鉄の刃物」は観覧者が約12,000人ですが、この4月5月という入館者が一番多い時期と重なっております。そして注目いただきたいのが企画展Ⅳ「こだいの「ふふっ」展」です。観覧者が5,011人と、閑散期にも関わらず、一般の方が3,400人、小中学生が1,200人と他の企画展に比べて一般の入館者の方の比率が高くなっております。この企画展についてはSNSなどで反応が多かった企画展になりまして、おそらく大人の方で今まで博物館に来なかった層の方を取り込めたことが、一般の方の来場者の比率を上げたことに繋がったものと思われま

す。それでは15ページを御覧ください。「講座・イベント」ですが、昨年度と講座内容は重なっておりますが、回数としては平成28年度の17回に対して29年度は22回開催しております。人気が高かったものは、表の6番目「田植え・田下駄体験」、これが189人、それから10番目「とろムラ体験フェスティバル」、これは述べ1,549人ですが、28年度が1,200人ほどでしたので、来場者が増えております。

次のページの13番目「稲刈り・脱穀体験」、これが148人、それから15番目「しめ縄づくり体験」が99名、「どんど焼き・甘酒ふるまい」が180人となっております。こうした体験型の講座は人気が高いことが読み取れます。

次に17ページを御覧ください。「講師派遣・出張講座」です。平成29年度が全体で8回開催されておりますが、これは28年度の3回と比べて回数を大幅に増やしております。続いて18ページを御覧ください。「共催・連携事業」です。「共催・連携事業」は13事業ございますが、この中で特に大学との連携が深いのが、3「登呂遺跡の田んぼで生物観察」、6「登呂ムラ紙芝居・カルタ・すごろく」が常葉大学、それから19ページの10「クイズラリー」は静岡大学のボランティアとの連携であり、大学との連携も積極的に進めております。

あとは20ページから広報活動、同ページに施設広報の項目がありテレビやラジオ、21ページの新聞記事は全体で43件と非常に多く新聞に出ております。あとは22ページが有料広告、それから23ページが無料広告、ウェブサイトとなります。それから24ページは当館のキャラクター「トロベア」による宣伝活動となります。トロベアが平成29年1月から駿河区全体の応援隊長になったということもありまして、博物館単独でなく、今は駿河区としての市政活動を行っております。

28ページからはボランティアの活動状況となります。ボランティア数が29ページの一番上にありますが、少しずつ増加しております。

以上が29年度の活動報告となります。

石川会長

29年度事業報告について、皆さんからの御意見や御質問等がありましたら挙手をお願いいたします。

石亀委員

平成29年度の企画展を何回か拝見していますけど、(「ウトウ・トロ・タカノミチ」の企画展を見たとき、)少し気になったのは非常にスペースが狭く感じました。非常に良いパンフレットも出来ていたのに、企画にしては陳列状況が物足りないと感じました。もうひとつ、その非常に近い三遺跡にどのような違いがあったのか、どういう点で共通していたのかという説明があっても良かったのではないかと思います。例えば、鷹ノ道にはトイレ跡があったという説明があったのですが、何故、登呂や有東にはないのか、このような違いとまた共通点をわかりやすく説明があればもっと楽しく、または参考になったのではないかと思います。何より企画展としてはスペースが小さいことが気になりました。

館長

特別・企画展示室自体があまり広くなく、苦勞している点であります。今の御質問ですとスペースの問題のほかに展示の仕方にも問題があるということでしょうか。

石亀委員

そうですね。展示の仕方もはっきりわかりやすく、ここが鷹ノ道、有東、登呂というようにはっきり分けて、もう少しわかりやすく展示していただければよかったと思います。そのあたりがあまり明確でなかったと思います。

館長

企画展については面積の制約もあり何とも言えないところもあるのですが、展示の内容でできるだけ多くの方に満足していただく展示を目指していきたいと思います。貴重な御意見ありがとうございます。

石川会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

杉山昌委員

入館者の箇所です。団体の大人の激減という点はどのような分析をされているのでしょうか。かつて新しくする前は団体バスがかなり停まっており、久能山東照宮関連で観光コースに入っていたのではないかと思うのですが、そのあたりの分析はされているのでしょうか。

館長

入館者の内訳は、観光会社で組んでいるような団体ツアーによる入館者はもともとあまりいなかったようです。例えば考古学や郷土史の団体の入館者などが主だったようです。それが、こちらが平成22年の開館以降、一通り御覧になった方が増えてきたことが入館者減の一因ではないかと考えております。ただ、1度来館したら終わりではなく、できたらリピーターとなって来ていただきたい、もう一回見たいという印象を持たせることが課題と思われまます。

石川会長

ありがとうございます。他にございますか。



伏見委員

市内の小学生、ほぼ6年生だと思うのですけれども、これはどの学校も来ているということでもよろしいでしょうか。

館長

はい。数字ははっきりとはしていませんが、市内の小学校のうち84校ほど来ております。

伏見委員

やはり、教科書で扱うということは大きいものなのですね。ありがとうございます。

石亀委員

中学校はどれくらい来ているのですか。

館長

中学校はそれほどではありません。

杉山昌委員

多分、市内だと小学校の時に登呂遺跡に行っており、中学校で行くところは市内ではないと思われます。しかし、市外の中学校が修学旅行などで寄ってくれるというのはどれくらいあるのでしょうか。

館長

数が詳しくわからないのですが、神奈川県内や東京都八王子市であるとか、遠方からも来られます。

杉山昌委員

修学旅行で日本平に行く学校があるようだから、そのコースに入ってくればよいかなと思います。

## (2) 平成30年度の事業について

石川会長

では、その他の御意見は後半部分にまとめて意見をいただくということで、続きまし

て平成30年度の事業について報告を事務局からお願いします。

館長

30ページを御覧ください。平成30年度の事業について、企画展は年間4回、企画展Ⅰの「ウトウ・トロ・タカノミチ」に続きまして、次の企画展「富士山がみえる」は今週土曜日（6月30日）から始まります。そして9月から「平成×登呂」、1月から「登呂をとめ 安倍をとこ」、3月から「静岡市の旧石器・縄文時代」を計画しております。31ページの2「遺跡活用事業」ですが、「市民水田」について平成29年度の市民20グループに対して今年度は25グループの申込みをいただきました。

次の「登呂遺跡復元水田活用・利活用事業」について、これは団体利用ですが、今年度は15団体であります。それから「田植え・田下駄体験」体験を先日実施いたしました。あと10月に「稲刈り体験」、7月に「登呂遺跡の田んぼで生物観察」を常葉大学と連携で実施いたします。

続いて32ページになりますが、教育普及事業をこの表のとおり実施していきます。

それから32ページの4「重要文化財登呂遺跡出土品保存修理事業」ですが、重要文化財の保存修理事業を行います。県の埋蔵文化財センターに保存修理を委託し約10年がかりで行います。平成30年度は37点で、内容は土器や石器以外の保存修理となります。次に33ページを御覧ください。予算及び歳出です。予算は平成30年度歳入が13,546,000円です。平成30年度の歳出は博物館費104,437,000円ほかとなっております。平成30年度の事業については以上となります。

石川会長

平成30年度事業について皆さんから御意見、御質問等ありますでしょうか。

杉山美委員

この年間スケジュールのチラシというのは登呂博物館にしか置いていないのでしょうか。

私の孫が清水区にある「ま・あ・る」という職業体験できる場所や、「る・く・る」科学館のような体験できる場所に行くのですが、そのような場所で年間スケジュールなどを置いて宣伝をしてくれると、「登呂遺跡も色々やっているんだ」ということがわかるかなと思いました。また、この間も賤機学区で田植えに参加させていただき、孫が大変喜んでおりました。そのとき、赤米を炊いて試食させてもらったのですが、子どもたちで御飯を炊き、食べるようなことを行えたらいいかなと思います。火を使う危

険はあると思いますが、ボランティアの方がついてくださればいいのかと思います。

館長

体験学習は学校からたくさん申込みがあり、色々な学校が来ていただいております。土器炊飯試食は土日やイベント時に屋外で実施しており、子どもに限定している訳ではないのですが、更に充実した形で行っていただければと思います。ちなみに「ま・あ・る」には、年間スケジュールやパンフレットを送付しています。

石川会長

他にありませんでしょうか。もしよろしければ、音声ガイドについての説明はありますか。

事務局

皆さんのお手元にございますパンフレットと音声ガイドの機器について説明させていただきます。まずは音声ガイドの機器ですが、昨年度作成して、すでに導入しております。受付時に利用者に使用言語を申請していただき、受付側で言語を選択してお使いいただくシステムになっております。昨今の音声ガイドは通信機能を使ったものも多いですが、こちらは通信を行いません。機器自体はスマートフォンを使っております。特徴は、従来の音声ガイドのように番号入力で聞くだけではなく、展示場所に近づくと自動で音声が始まるという機能もございます。特に遺跡の建物などについても説明していますので、近づけば音声ガイドが始まる点は大きな特徴であります。

続きましてパンフレットですが、昨年度、登呂博物館のパンフレットと登呂遺跡のパンフレットを統合しました。一つのパンフレットで遺跡と博物館、両方情報を得ることができるようになりました。こちらも4カ国分、英語、中国語は簡体字と繁体字、あとは韓国語、日本語、以上の4カ国語の翻訳しております。英語のパンフレットにつきましては、ラックからいくつか減っており、持って行く方がいると感じております。

音声ガイドにつきましても、4月末から現在まで約80件利用していただいております。これから夏に向かって学習などの機会に、より理解を深めてもらうために使用していただきたいと考えております。

石川会長

かれこれ私も協議会委員を5年程務めておりますが、以前からこの多言語化や音声ガイドの話がありまして、本日このように出来上がっていることに改めて驚きました。まさに外国人のインバウンドに対応していくことになると思います。開発にも結構予算がかかったのではないですか。

館長

そうですね、400万円くらいです。

石川会長

400万円くらいということですね。どうもありがとうございました。

石亀委員

これ、持ち去られたりしないのですか。

館長

外に持ち出せますが、それにつきましては、申請時に身分証明書を記録させてもらっておりますので、持って帰っても借りた方がわかるようになっております。

石川会長

海外のギャラリーなどは、パスポートなどと交換で、持ってこないと返さないシステムをとっています。免許証でもいいのですが、そのくらい厳しいところもありましたね。

館長

当館で記録させてもらっているのは個人情報ですので、記録したものは機器返還と交換でお返ししております。

石亀委員

どれくらいの数を用意しているのですか。

事務局

20台です。

石川会長

他に30年度のことも含めて、何か御質問等ありますでしょうか。

石亀委員

予算のところですけども、1億円を支出に対して収入が1,300万円ということは、およそ8,700万円は市の方で補填されるといいますか、市の予算が入っているということですか。

館長

はい。そうです。

石川会長

杉山委員何か御意見ございますか。中学校の活動や今回のこの音声ガイドのことでもよろしいのですが。

杉山昌委員

入館者を増やすことが至上命題と考えておりますので、いわゆる博物館や遺跡の王道を進んでいくのと同時に、少し道を外しても、人気が出る方法、少しくだらな話で申し訳ないですが、例えば鉄腕ダッシュのような番組が来てくれたら、もしかすると急に入館者数が増えるかもしれないという色々な可能性があると思います。この間、修学旅行で明日香村を訪れた際、明日香村は登呂と重なる部分があり、残っているのは遺跡や跡と言われるものばかりで、規模もここと同じくらいしかないのですが、何か呼び込めるようなイベントがあれば知名度があがることはあるのかなと思いました。

(3) 議題「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」

石川会長

では30年度のことに関しては、もうよろしいでしょうか。

では、最後の議題に話を移します。「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための登呂博物館における課題の解決策について」事務局から本日の趣旨、論点の説明をお願いいたします。

事務局

今期の議題は「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための登呂博物館における課題の解決策について」です。

こちらの議題は、平成27年8月から2年間にわたり議論を重ねていただきました『3次総でめざす「歴史文化のまち」実現のための登呂博物館の在り方について』御意見をいただき、登呂博物館および登呂遺跡の役割やあり方について提言していただきました。

そして、今期は提言いただいた役割を果たしつつ、更に発展をするために、子ども世代への登呂を考古学、文化の魅力の継承、このような点につきまして議論していただき、課題と解決策について提言していただきたいと考えております。そのため前回皆様から御意見いただきました内容を本日の資料といたします。

登呂遺跡は、全国に先駆けて水田跡が発見され、弥生時代における稲作農耕を基盤としたムラづくりの様子が明らかとなりました。住居・倉庫・祭殿・水田等が復元されておりまして、見学と共に火起こし等の体験もできるような形になっております。復元水田では博物館、小中学校、市民団体、一般市民が赤米を中心に栽培を行っております。

登呂遺跡で収蔵する出土品のうち、775点は重要文化財に指定されております。その価値を継承していくためにも出土品を活用した事業を行うことが求められております。弥生体験展示室では登呂ムラを再現し、様々な体験を通して興味の喚起や知識の深めてもらえるよう努めております。

また、登呂遺跡の発掘は戦後、間もない昭和22年に本格的な調査が開始されております。物資が不足するなど困難な中、学際的な調査も行われており、このような発掘調査が戦後の日本に希望をもたらしただけでなく歴史学や考古学など様々な分野で発展をもたらしております。このような面からも重要文化財の指定などに繋がっております。

様々な魅力を持つ登呂遺跡ですが、魅力を後世に繋ぐために展示、体験活動、教育普及事業、共催連携事業など様々な取り組みを行っていますが、それらの取り組みに対する御意見や有効な方策についての御意見をいただければと思っております。

市内の小学校は大体全ての小学校、主に6年生に見学いただいております。しかし、6年生だけでなく他の学年、更に小さなお子様なども、登呂遺跡・登呂博物館のことを知り、小さい頃から知識や体験を通して登呂遺跡に親しんでもらい、更に次の世代へ伝えていけるような方々に育っていただきたい、このような点で登呂遺跡も努力して行きたいと考えております。

しかし、統計上からも小中学生の見学が減少しています。人口減少だけが原因ではな

いと考えられ、更に市内のたくさんの小学校の方々が見学に来ていることも考慮しますと、人口減少以外の要因も考えられます。個人で来てくださる小中学生は減免で観覧できますので県内の小学生、もしくは市内の小中学生など減免対象となる方の来館が減少しているのではないかと考えられます。

本日は北側ガイダンスと南側のサポート施設も御覧いただきましたので、施設の活用なども含めまして小学校6年生以外の学年にアプローチする御意見いただければと考えております。

石川会長

それではざっくばらんに、思ったアイデアや聞きたいことなどありましたら挙手をして御意見をお願いいたします。

渋江委員

市内の小学校6年生がこちらに見学に来られた際に、大体どのくらいの時間をここで過ごされるのかということと、過ごし方について、例えば展示を見てこんな体験とか、何か過ごすプログラムのようなものが決まっているのであれば教えていただきたいです。

事務局

学習プログラムは、1つ目は外の遺跡、2つ目が2階の常設展示室と企画展示室、3つ目が1階の弥生体験展示室の見学となっております。

2階の常設展示室と遺跡につきましては、説明を聞きながら見学する、もしくはその場所ごとに立っているボランティアから説明を聞くかたちになります。

1階の弥生体験展示室では様々な体験が出来るようになっておりますので、その体験を自由に楽しんでいただくということが主になっております。

所要時間は、概ね1時間半あればゆっくり御見学いただくと案内しています。1時間半から2時間の学校もあり、ちょっと短く1時間という学校もあります。

渋江委員

それでは学校は終日いるというよりは、例えば、午前、午後のどちらかの時間を使ってこちらを見て、最後に少し1階で体験をするといった形で過ごされているのでしょうか。

事務局

見学する学校が集中することが多いため、このクラスは常設展示室から、このクラスは遺跡からと一箇所にまとまらないように工夫しておりますので順番は決まっています。

あとは半日か一日かという質問ですが、次にどこに行くかにもよりますが、昼食をこちらで食べる学校も多いように思われます。

課長

こちらに1時間半もしくは2時間ということですが、現在、午前中または午後、登呂遺跡に来た人たちが、浅間神社近くの古墳の賤機山古墳とセットで見学を申し込まれる場合が非常に多いです。ですから朝に賤機山古墳の見学があって、文化財課の職員に説明してほしいという学校があり、賤機山古墳の見学が終わると次は登呂に行きますという小学校がたくさんあります。またその反対もありますが、多くは最初に賤機山古墳に行って、そこから登呂や駿府公園と廻る団体が多いです。そしてほぼ一日で廻っています。

渋江委員

一日の見学で他にも廻る中で登呂遺跡も組んで、学校が利用されているというケースが多いということでしょうか。

課長

はい、文化財課ではそのように認識しております。

渋江委員

ありがとうございました。

石川会長

伏見委員から学校の立場として何かアドバイスありますか。

伏見委員

多くの学校はバスを借り切って来るものですから、セットで1日回っていくというのが一般的だと思います。小学校という立場からすると、企画展よりも常設展に展示してあるものを見ていくというのが中心になります。



うちの学校は今年トロベールをととても活用させてもらっております。付加価値のものになりますので、例えば入学式の日にはトロベールを呼びました。そして来賓席に座ってもらって、笑いのためですけれどね、来賓紹介の最後に「トロベール」と言ってもらって笑いを取るのです。あとはPTA活動や運動会に呼んだりしています。6年生しか登呂遺跡・登呂博物館に行かないということではなくて、近所の学校は1年生の時からトロベールに触れて、「登呂ってこういうところなんだ。登呂遺跡って近くにあっていいところだな。」という擦り込みしていくことを行っています。

そしてトロベールはとても人気があるものですので、もっとトロベールが前面に出るような企画などが出来ればもっと集客が増えるのではないかなと思いました。益田さんが付けているバッジなども私はとてもよいと思いました。あのバッジはとてもよくて私も欲しいのですが、このようなバッジを入館者にあげたり、近くの学校に配ったりすれば、もっとたくさん来てくれる気がします。子ども目線だと、とてもありがたいと思います。

もう一つは今はバーチャルや仮想体験が出来るのですけれども、本当に手足を動かして汗をかかないと体験できないような、そういったものこそ学校にとって非常に求めたいと思うものです。やはりここに来て、ここでしか学べない、ここだと何か感動を貰って帰る、そういったものがあるといいなと思います。今でも十分だと思うのですが、リピーターを増やすということになれば感動を忘れず家の方に伝える、感動を忘れず下級生に伝える、というようなことが出来ればいいなと思います。以上です。

石川会長

どうもありがとうございました。他にございますか。

石亀委員

館長にお尋ねしたいのですが、学校からの社会教育の子どもたちの反応、学校からの報告というものはあるのですか。

館長

はい、全校ではないですけれども感想を寄せてくださる学校はございます。

石亀委員

私も昨年度の第2回協議会に参加して、それまでは登呂遺跡・登呂博物館について一市民としてあまり関心が無かったのですが、立場が変わって皆さんとお話しする中で

杉山先生がおっしゃったようにどうしたら集客が出来るのかは館としては一番目指すところであり、いかに入館者を増やすかを私も考えるようになりました。PTAの方や地域の方とどうしたら入館が増えるかと話をしてきたのですが、私なりに考えた結果、以前私が来館した時に小学生の団体と話して感想を聞いたところ「おもしろかった」「珍しかった」「よくわからなかった」「楽しかった」とこのような返事が返ってきました。非常に率直な感想だと思いますが、ここで将来的に求めていくことは歴史的な弥生時代の文化の価値観を発信していかなければならない、そういう場所でもあると思うので、先ほど小学生の年代からもっと年代を下げてという話がありましたが、私はそのようには思いません。先程、私は中学生の入館者数を聞きましたが、小学生だとまだそのような価値観の感性が出ていないため、中学生に目を向けたらどうかと思いました。中学生になると非常に歴史的に物事を考える視点が格段に違ってきます。そういう意味において、これから館としても中学生にどのように来館してもらうかということをぜひお考えいただいたらどうかと、そうすると歴史の中の弥生時代・弥生文化、住民生活の流れということをつ捉えたときに中学生の中にこの博物館が埋め込まれていくと、このように感じたのですけれども、その辺のことをまたお考えいただきたいと思います。

石川会長

事務局側からと杉山先生からコメントいただきたいと思います。

杉山昌委員

中学校でも何か方法も必要かとも思います。中学生に「お前たち、ここは勉強になるから見てこい」と言うだけではなく、中学生自身にどのように動機を持たせることができるか、例えば小学校のときにまいた種が中学生の段階でどんなふう to 育ったのか、中学生のときに再びここを訪れたいという気持ちになってくるような種を、小学校のときは教科書で勉強して、それを社会科見学で見るという種をどのように育てていくのかという仕掛けをしていけばよいのかなと考えます。

石川会長

中学生は部活があるから足を運ばないということが事情としてあるということですか。

杉山昌委員

そうですね。ただ、中学校が学校行事、遠足のような枠組みとして「登呂遺跡を訪れ

ましよう」ということを新たに作るのは難しいと思います。中学生段階で先程申したように、ある程度高尚な気持ちを持ってくるのか、それとももう少し王道とは外れても来てみたいという気持ちを持ってくるのか、どちらにしても何らかの仕掛けは必要であるとは思いますが。

石川会長

事務局の方で何かございますか。

館長

ありがとうございます。確かに中学生くらいになると歴史がもっと深く理解できて、それがリピーターに繋がるというのはおっしゃる通りだと思います。ただ、そもそも入館者数が減ることがどうして問題かという、私としては入館料が減るから問題になるのではなくて、せっかく静岡市にこのような特別史跡の遺跡があるのに見てもらえない、足を運んでもらわないことには見てもらえないので、この価値が伝わらないということが問題だと思います。あとは2階に上がってもらえないで帰ってしまうのは非常に残念で仕方がないです。せっかく来てもらったのに、重要文化財の現物、2000年前のものが目の前にあるのにそれを見ないで帰ってしまう。ですから伝えるために、今までなかった部分は何だったのかなということを今考えているところなのですが。中学生のことで話が出ましたが、価値を伝えるというのは原点であるというように思いました。まとまっていないのですけれども、そういった意味で単に数を増やすのが目的ではなく、価値をいかに伝えるかということで博物館を運営していきたいと思っております。

石川会長

現在、常設展示室と1階の無料展示でのカウントが利用者数の値となっていますが、先程の29年度の報告でイベントの参加人数はその中には含まれていないと思います。私は講座やイベントの集客、例えば田植え体験189人や稲刈り脱穀体験148人など、建物の中よりも屋外での体験プログラムの人数も含めて登呂史跡全体での施設利用者数をあげていく方がよいと思います。もしかしたら屋外の利用者数を増やす方が、登呂の魅力を高めることにつながると思いました。

ホームページを見て来館したというデータが結構多かったというのは、個人客かもしれないけれども、ホームページの中で小学校の低学年や高学年、中学生用の体験プログラムの案内を発信していますか。それこそ修学旅行生などが、1時間か2時間で体

験できるプログラムが屋外であれば修学旅行の集客にも繋がるだろうし、団体の利用客でも事前の情報発信があれば「ここは修学旅行のプログラムとして組み込める」などと考え、屋外体験のプログラムを含めて増えてくる可能性があるかもしれない。また、市民の潜在的な需要が実際の講座・イベントの中で表れているので、伝える内容と情報発信の仕方が重要であると思いました。そうすれば別に観光客でなくても地元のリピーターや学校行事などで訪れた中学生が部活の合間に来てくれるとか、場合によっては親御さんと家族連れで参加するということもあると思います。他に御意見ありますでしょうか。

杉山昌委員

外で火起こし等ができる時間帯が4時ころで終わってしまい、小学校の中学年くらいになると一度家に帰った後ここに来て、もう出来ない時間帯になっており、ボランティア頼みなので、特に夏の時期はもう少し遅くまで時間を延ばしてくれたら、子どもたちも参加できるかなと思いました。

あとは水路でのザリガニ捕りに子どもたちがかなり来ています。近くの子は子どもだけで来ていたりしています。こんなに生き物がいるとういことを教えてあげるといいかなと思いました。

石川会長

ありがとうございました。渋江委員、何かございますか。

渋江委員

社会教育施設としても博物館の強みを生かしながら入館者数を増やすということが、どうやって実現できるのかなと思っていたことが1つと、2つ目は子どもさんに魅力を伝えていく中で小さな子どもさんに伝えることと同時に、子どもさんに関わっている大学生やもう少し上の大人もまた改めて登呂のことを学ぶ必要があるのではないかなと思っています。昨年こちらにいらした館長さんに生涯学習概論という授業で登呂博物館・登呂遺跡の講義をしていただいたのですが、小学校の頃ここに来たことがある学生も受講はしているのですけれども、その後、距離が出てしまって改めて学び直したということと、比較的私どもの大学は県外から来ている学生もいるのですが、なかなか大学と下宿とバイトの往復になってしまって、身近にある静岡の歴史的価値に自分から足を向けていないのだなという実態もわかりましたので、どういう形で大学生がここの価値をまた学ぶような機会を作ればいいのかというのを、私自身の課題と

思ったところでもあります。

#### 伏見委員

昨年度の企画の中で「古代の「ふふっ」展」がありましたが、あれはタイトルがいいですね。うちの学校でもポスターを貼ると、あのような魅かれるタイトルですと子どもたちが集まりました。周りから「これは行ってみたい」という声が聞かれたので、やはりタイトルも難しいものよりも行ってみたいという興味をそそられるような、興味が無い人でも親しみを感じてもらう、そのような掘り起こしを目的に行った企画展だと思うのですが、こういったものが毎年一つ二つあるとやはり違うのではないかなと思います。ぜひ御検討いただければと思います。

#### 石川会長

御意見や御質問等いかがでしょうか。

キーワードとしては来館後また来たいと思わせる魅力でしょうか。展示だけでは伝わらない場合、体験など、それが屋外でできたりすれば良いと思います。更に資料をみると季節感を感じられるイベントにも人が多く参加し、家族連れで来ているようです。静岡市内では他の自治体と比べると都市公園が少なく、こどもたちは近くに遊ぶ場所が無くて困っている。そんな場合、家族連れで訪れることが出来るような形で史跡公園を使っていただければと思います。遊び場になってしまうと少し趣旨が変わってしまいますが、少しでも親しみを持っていただき、そのような場所で頻繁に立ち寄ってもらえればよいと思います。そして、建物の中だけではなくて屋外もカウントできる仕組みを整えれば、実際、館内では減少しているが、屋外は増えていることが見えてくるかもしれません。

登呂博物館の職員の方は、広大な敷地でよく頑張っていると思います。限られた職員数でこれだけの事業を行っていることは、他の博物館よりも素晴らしいと思います。自分たちがよく頑張っているというのをPRしてもよいのではないかとともに思います。

他の方々はよろしいでしょうか。

では12時に終わるという予定にもなっておりますので、本日の発言に関しては、また議事録でまとめてもらうことと、あと可能ならば今回と前回の要約やポイントをまとめて次回中間報告のような形で紹介をしてもらえればと思います。

それでは皆さんの発言が、今後の博物館経営に活かしてもらえたらということでお願いいたします。

これで議事を終了させていただきます。

館長

次回は9月に開催を予定しております。次回は第3回目になりますので1回目と2回目の議事を3回目にまとめていただいて、4回目の答申を目指すというスケジュールで行っております。よろしくお願いいたします。

事務局

それでは、これをもちまして平成30年度 第1回登呂博物館協議会を閉会させていただきます。本日は委員の先生方、貴重な御意見ありがとうございました。これをもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長

---

委員

---